

令和2年度 第2回 学校評議員会 記録

日時 令和3年2月26日(金)

13:30~14:45

会場 気仙光陵支援学校会議室

【出席者】

<学校評議員>	<学 校>
A委員 (進路先関係)	校長
D委員 (教育関係)	副校長 2名
	事務長

【欠席者】

<学校評議員>	<学 校>
B委員 (地域関係)	教務主任兼中学部主事
C委員 (地域関係機関)	小学部主事
E委員 (卒業生関係)	高等部主事
	寮務主任

※ 大船渡地域における新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、学校職員については、管理職のみの参加とした。また、授業見学は中止とし、協議事項も説明を短くするなど、時間を短縮した。

1 開会のことば

2 校長挨拶

評議員の方々への謝意と併せて、今年度の学校運営計画の実施状況についての説明

3 協議

(1) 今年度の学校運営計画の実施状況について(別紙資料)

別紙資料により、担当副校長・事務長より説明

(2) 今年度の各学部の取組みの様子

スライドの上映および、担当副校長により説明

(3) 学校評価結果について(別紙資料)

別紙資料により、担当副校長より説明

① 重点目標1(授業づくりの充実~)について

A委員:生徒さんの評価(学校評価)が高く、満足しているということが何よりである。今後も継続した取組みをお願いしたい。

D委員:学校(本校)では個に応じた指導を行っている。そのため、素晴らしい結果(学校評価)が出ているのであろう。今後も子どもの特性に応じた指導を継続して行ってほしい。

② 重点目標2(自立と社会参加に向けた教育~)について

D委員:(進路指導について)努力した結果が成果となって現れている。コロナの関係で大変な

状況であったと思われるが、現時点で93%の生徒が希望進路を実現できそうだということは素晴らしいことである。卒業生が3ヶ月の間に2名離職したとの報告があったが、こうした卒業生は頼るところがあまりないと思われるので、可能な範囲で引き続き指導ができるかと保護者も安心するであろう。大変だとは思いますが、こうした体制作りも考えてみてはどうか。

A委員：卒業生の離職について、我が社でも新入社員のフォローアップ研修という制度を取り入れている。かつては3年間の研修期間であったが、それでは足りず、5年としている。長期的な支援を必要としているのが最近の若者ではないかと感じている。しかし、学校として卒業後いつまで支援していくのかということは課題となるであろう。

③ 重点目標3（地域社会に開かれた学校づくり～）について

D委員：コミュニティ・スクールが始まるということも踏まえたい。コロナの関係で範囲を拡大することは難しいが、これまで以上に地域、学校との連携を深めていく必要があるのではないかと感じた。

A委員：（学校評価の）評価の基準が難しいと感じる。主観的になっているのではないか。企業の例で言うと、すべて数字に置き換えている。こういうイベントを企画した結果どのような成果が得られたのか、など一つずつ評価している。

④ 重点目標4（交流及び共同学習の充実～）について

D委員：コロナ禍においてもこれまで同様の交流ができたのか？

副校長：間接的な交流としたケースもあった。

D委員：かつて勤務していた中学校でも支援学校との交流を行っていた。その中で双方にとって得られるものが大きいと感じた。学校評価の結果も良いので、コロナに気をつけながら今後も引き続き継続して欲しい。

A委員：結果からみても良かったと評価できると思われる。コロナの状況により、企業においてもWEBの利用が多くなってきている。学校現場でもタブレット等、取り入れていくことも考えられるのではないか。我が社でも職員のダンスコンテストをWEB上で行った。このような取組みも生徒は興味をもつのではないか。

⑤ 重点目標5（健康・安全教育および防災、復興教育の推進）について

D委員：教職員は防災教育のどのような点が足りないと感じているのか？何か具体的な意見はあったのか？

副校長：詳細について調べていないが、避難訓練、被災地の見学等の活動について、現状では防災、復興教育として十分ではないと感じている可能性がある。

D委員：東日本大震災から10年が経つが、沿岸地区の学校でも震災を経験していない教員が増えてきている。以前はあまり直接的に震災を扱うと心理的負担が大きいということが懸念されていたが、今は風化させないことの方が大事になってきているように感じる。高等部と小学部、中学部と、子どもたちによって違う部分もある。風化させないような

取組みが今後必要になってくるのではないか。

A委員：最近も地震があった。東日本大震災から10周年の節目でもあるが、どこに逃げるか、備蓄品がどこにあるのか等改めて確認し、子どもたちがいつでも無事に避難できるよう準備しておくことが大切であろう。

D委員：沿岸地区で震災を体験した職員の割合はどのぐらいか？

校長：半分もないであろう。震災時、まだ学生だったという職員や、実体験を伴っていない職員も多いと考えられる。

D委員：住田町の学校では内陸との人事異動が多く、被災経験の無い職員が増えている。地域によって異なると思うが、今後の復興教育をどのように進めていくか、職員向けの研修を考えていく必要がある。

⑥ 重点目標6（いじめの防止～）について

A委員：いじめについては高い評価が出ているので達成できていると言うことで良いと思う。一方で、このコロナの状況で外出ができないことや、行事が少なくなってしまうと、ストレスを抱えているということはないか？

副校長：運動会など、行事が無いということに不満を感じている生徒はみられた。やりがいを失ってがっかりしているようだった。

A委員：そのような子どもたちへの心のケアが必要になのかもしれない。

D委員：「学校は安全で安心」と感じている児童生徒が99%となっている。本人がそう感じているということが何よりである。素晴らしいと思う。

(4) コミュニティ・スクールの構想について（別紙資料）

別紙資料により、担当副校長より説明

A委員：学校運営協議会の委員として、次年度も企業の立場で協力したい。学校側から、年間の行事予定などの資料を提示してもらい、その中で何が課題であるかを具体的に示してもらおうと意見も述べやすいのではないか。

D委員：学校関係者ということでも今後も協力したい。学校には同窓会という組織もあるのか？あるならば、学校運営協議会にもご参加いただき、同窓生の立場からご意見を頂くことも必要ではないか。

4 報告（別紙資料）

(1) 令和2年度の進路状況について

別紙資料により担当副校長が説明

(2) コンプライアンス結果について

別紙資料の紹介

(3) その他

- ・ 各学部通信及び新聞記事についての紹介
- ・ お一方ずつ、ご助言をいただく。

① A委員より

引き続き学校運営協議会関わらせて頂き、企業の立場から学校運営に協力したい。

② D委員より

今後も個人的な意見を述べさせて頂きたい。

コロナ対応に尽力されている先生方を労いたい。健康に留意していただきたい。

③ B委員より（欠席されたが、事前にお伝え頂いた内容の代読）

- ・ コロナウイルスの対応で学校は大変な状況であったであろう。これまで感染者が見られなかったことは対応がうまくいっていることであろう。
- ・ 地域で行われたコミュニティ・スクールの研修会に参加した。学校評議員会が無くなることを知った。今後も地域と学校との連携を深めていきたい。
- ・ 高等部生徒による公民館の清掃は大変ありがたかった。地域住民も感謝している。今後もお願いしたい。
- ・ 高等部生徒による立瀬川の美化活動についても感謝している。今後もお願いしたい。
- ・ 自身が管理している畑があり、収穫体験活動の場として提供したい。

5 閉会の言葉